



2006よろしく



明けましておめでとうございます。

今年も、旬な情報をいち早く皆様にお伝えします。
ですから、今後もやまくら～ズでお楽しみください。

また今年一年が、皆さんにとって、いい年でありますように。



これからが正念場ですな・・・

新年早々、こんなことを書いていると、「せっかくの正月気分が・・・」なんて言う方が居られるかもしれませんが、そのんきに構えてもいられないのです。それは2006年度の給与のことです。皆さんの給与が大幅に下がってしまう可能性が大ってことですよ。今年度の給与も1月から0.3%の基本給引き下げを大学側は言っているし、組合との交渉の中でも「人勧に従う法的根拠はない」と認めながらも、人勧に従うしかないという大学の態度。このままだとほんとに人勧通り、2006年度は給与の5%引き下げが行われますよ。40代から上の方たちには更に押し掛かってきます。最大で7%です。若い僕らへは、基本給へそんなに影響はないかもしれないけれど、いずれはその俸給表に行くわけであって、僕らにとっては、どれだけがんばっても給与がなかなか上がっていかない俸給表が出てくるのです。おまけに今の俸給表の一号俸を四分割にし、特別昇給等がなくなることにより、評価制度をとりいれ、個々人が評価され、昇給する率が変わってくる。今の世の中、「評価制度を取り入れるべきだ」という若者が多いのはたしかであるが、民間会社と違って、営業(外回り)をするわけでもなく、教育研究等に従事する教員や技術職員、地域住民の命を預かる医療・看護職員、そのサポートと大学運営を行う事務職員等、様々な職員で構成されている大学で、誰がどう個々人を評価していくのであろうか。



まあ、来年度の給与が確実に人勧準拠するかってのはまだ不確定だが、これまでの組合機関紙「赤煉瓦」を読んでいれば、なんとなくではなく、現実的に想像がつかます。皆さんのなかには「どうせ抵抗したって無理だよ」なんて思っている方が居られるかもしれませんが、諦めて何もしなくなったり、「誰かがやってくれるだろう」なんて考えていたら、そこで終わりです。自分のことは自分で真剣に取り組まないと、良くはなりません。組合は前回交渉の「基本給-0.3%阻止」も諦めたわけではなく、まだ闘う余地は充分にあると考え、頑張ります。それと平行して次年度の給与問題について、大学側と交渉を持っていきます。

とにかく大変な一年になりそうです。皆さんの声と協力をお願いします。共に良い年にしてゆきましょう。

熊本大学教職員組合青年部機関紙
やまくら～ズ 発行 No.22 2006/01/05